
空手部の日常

ニッペマン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空手部の日常

【Nコード】

N2157BA

【作者名】

ニッペマン

【あらすじ】

空手部シリーズとは、「Babylon Stage 27『誘惑のラビリンス』第三章『空手部・性の裏技』」に登場する、空手部トリオの日常を描いた作品である。

らーめんを食べに行くの巻（前書き）

大先輩でも分かる、名前の読み方講座。T D K R（田所）、M U R（三浦）、K M R（木村）、???（特別ゲスト）

らーめんを食べに行くの巻

チャイムくん「キンコンカンコーン！（迫真）」

―――学校屋上―――

TDKR「MURさん夜中腹減んないすか？」

MUR「減らねーな」

TDKR「じゃけん、夜ラーメン食いにいきましようね」

―――道中―――

TDKR「ぬわあああんもうつかれたもおおん←」

MUR「ちかれた・・・（小声）」

KMR「まだ30mしか歩いてませんよ」

MUR「ラーメン屋までどのくらいかかるんだ？」

TDKR「3時間くらい（適当）」

MUR「おっ、そうか」

数分後

MUR「おいTDKRオ！全然つかないじゃねーか（憤怒）」

TDKR「あれーおっかしいな」

KMR「先輩、もしかして道に迷ったんですか？」

TDKR「ま、多少はね？」

数分後

MUR「もうすっげーつかれたゾー←」

KMR「諦めて帰りましようよ」

TDKR「なんだよ2人ともだらしねえな」

MUR「KMR・・・（マジギレ）」

MUR「おいKMRア、羽交い絞めにしろ」

KMR「はい」

???「（なにやってんだあいつら？）俺も仲間にいれ」

キキー！ドンッ！（迫真）

???「誰か轢いちゃったよ、やべえよやべえよどうする・・・？」

TDKR「えっ？えっ？MURさ、MURさん勘弁してくださいよ
ー」

MUR「じゃあ（腹に）ぶち込んでやるぜ」（震え声）

TDKR「ンアッー！」

TDKRはMURにボコボコにされて終了

メダリンクをするの巻

TDKR「うちさあ、メダリンクあるんだけどやってかない？」

MUR「やりてーなー」

TDKR「じゃけん、後で家に寄りましようね」

――― 野獣邸 ―――

TDKR「あがって、どうぞ」

MUR KMR「お邪魔しまーす」

TDKR「飲み物持ってくるから、適当に座ってまってて」

KMR「はい」

MUR「おっ、ベットの下にエロ本あったゾ」

KMR「MURさん勝手にイジっちゃまずいですよ」

MUR「そうだな（素直）」

TDKR「おまたせ！麦茶しかなかったけどいいかな」

KMR「いただきます」

TDKR「それじゃはじめよっか」

――― メダリンク接続 ―――

KMR「先輩達のメダロットってどんなのですか？」

MUR「ポッチャマ」

TDKR「射撃タイプウ（大嘘）」

KMR「それじゃあ僕はサポート型にしますね」

TDKR「じゃあさ、ちよっと相手検索するから」

MUR「おっ、見つかったみたいだな」

KMR「相手はTDN DB HTNって人達ですね」

TDKR「犬型とホッケ型と幽霊型か！これもう勝てるかわかんねえな」

――― ロボトル開始 ―――

MUR「よしぶち込んでやるぜ」ねらいうち攻撃 レーザー
>>HTN「ウィヒ！」回避

T D K R「ほらいくど」がむしやら攻撃 ソード>>>T D N「アッー！」右腕破壊 脚部に貫通

K M R「M U Rさん、いきなりレーザーは当たりませんよ」索敵行動 レーダー

T D N「オフッ！」選択したパーツは破壊されている

D B「ヴォー」うつ攻撃 ライフル>>>T D K R「ファッ!？」

クリティカル 頭部破壊 機能停止

H T N「ウィーヒ！」隠蔽行動 ステルス

M U R「ちかれた・・・」ねらいうち攻撃 レーザー>>>T D N

「アッアッ・・・」脚部破壊 頭部に貫通 頭部破壊 機能停止

――――ロボット終了――――

M U R「楽しかったゾー→（ご満悦）」

K M R「先輩をリーダー機にしなくてよかったですね」

T D K R「あつ、K M Rさ、俺がパーツ手に入れた時チラチラみてたよな？欲しけりゃやるよ」

K M R「ありがとうございます」

三人は立教トリオに勝利して終了

釣りをするの巻

チャイムくん「キンコンカーンコン（迫真）」

―― 12:00 学校屋上 ――

TDKR「フー→つかれましたね」

MUR「腹減ったな」

KMR「昼食にしましょう」

MUR「KMRア！今日はなんだ？」

KMR「おにぎり三種とウィンナーと玉子焼きですよ」

TDKR「おっ、うまそうじゃーん。1個いただき」

KMR「先輩、行儀悪いですよ」

TDKR「硬いこというなよ」（モグモグ）

「そんなこんなでご飯を食べ始める3人」

KMR「MURさん、さっきからなに見てるんですか？」

MUR「ん？これか、道に落ちてたんだよ」

「そう言って一冊の雑誌をKMRに差し出す」

KMR「月間、釣りロマン爺ですか」

MUR「そうだよ、おれも釣りしてえな」

KMR「僕も釣りした事ないんで、興味ありますね」

TDKR「うちにい、釣り道具あるんすけど、夜いきます？」

MUR「おっ！いきてえな」

TDKR「じゃけん、後でいきましょうね」

―― 20:00 釣り場 ――

MUR「暗いな、おいKMRア！足元に気をつけろよ（アドバイス）」

――

KMR「はい」

TDKR「竿が2本しかなかったけどいいかな？」

KMR「僕は魚アレルギーなので（大嘘）、MURさんどうぞ」

MUR「おっ、そうか？ よーし釣ってやるぜ」

「釣りを始めてしばらく沈黙する3人、すると遠くで争うような声が聞こえてくる」

「？？」 「やだ！ やだ！ 小生やだ！ ライダー助けて！」

「？？」 「誰が大声出していいつつたコラァ！！ 飛び込めよ早くオラァ！ （腹ライダーキック）」

ザッバーン！（迫真）

「？？」 「溺れる！ 溺れる！」

MUR「おっ、引いてるゾ」

KMR「わぁ、MURさん、がんばってください」

MUR「これは大物だゾ」

ザッバーン！（迫真）

KMR「針が引っかかったただけでしたね」

MUR「ポッチャマ・・・」

「落ち込むMURを尻目に、今度はTDKRに引きが」

TDKR「あーいいいいいいいいいいよ。大物きてる、はつきりわかなだね」

KMR「MURさん、落ち込んでる場合じゃないですよ。かなりの大物みたいです！」

MUR「おっ！ TDKRオ、がんばれよ」

TDKR「（魚）暴れんな！ 暴れんなよ！」

TDKR「引きスギイ！（竿が）イクイクイクイク！ンアッー！！」

ザッバーン！（迫真）

「？？」 「ゲホッ！ ゲホッ！ オエッ！ オエッ！ ハッハッハッ・・・（過呼吸）」

TDKR「デデドン！（驚愕）」

KMR「小学生・・・？、にしては老けてますね」

MUR「海坊主が釣れたな」（ご満悦）」

3人は人命救助して終了

バイトするの巻 ファミレス編

―――学校屋上―――

KMR 「TDKR先輩、また遅刻ですね」

MUR 「そうだな」

KMR 「予想だと、そろそろ来る頃だと思います」

〽KMRの予想通り到着するTDKR〽

TDKR 「また遅刻しちゃいましたよ〽←」

KMR 「これで893日連続遅刻ですね」

MUR 「遅刻大会があれば、優勝だな」

TDKR 「ところでMURさん、金欲しくないですか？」

MUR 「ほしいな」

TDKR 「ですよ、いいバイトあるんだけど、いかない？」

KMR 「ホモビ男優とかじゃないですよ？」

TDKR 「ち、ちがうよ、KMRのバカ！、あれだよ、あの、そう
だ、ファミレスのバイト」

KMR 「ファミレスですか・・・」

MUR 「簡単そうだな、やるか」

TDKR 「じゃけん、店長に連絡しとくんで、後でいきましょうね
」

―――ファミレス―――

TDKR 「この2人が連絡しといたMURさんとKMRです」

MUR KMR 「よろしくお願いします」

店長 「おう、よくきたな、早速着替えるんだよ、早くしろよ」

―――更衣室―――

KMR 「僕達はなんの仕事するんですかね？」

TDKR 「KMRが厨房で、MURさんがロビーで接客」

MUR 「お、そうか」

KMR 「厨房ですか・・・。料理覚えといてよかった」

TDKR「そいじゃ2人ともがんばってね」

くそう告げると去っていくTDKRく

KMR「TDKR先輩どこいったんですかね？」

MUR「さあな、仕事するぞ」

くそれぞれが持ち場に就くく

―――厨房―――

おじさん「なにトロトロやってんだオラァ！（もぐもぐ）」

KMR「は、はい！すいません」

おじさん「オラァ！もっとスピード上げろ！（ゴクゴク）」

KMR「は、はい！すいません」

店員Y「おい！お前なにやってんだ！」

KMR「えっ？えっ？」

おじさん「やべ（全力逃走）」

店員Y「またあのおじさんかぁ・・・壊れるなあ」

KMR「今のおじさん、従業員じゃないんですか？」

店員Y「彼ね、よく忍び込んで勝手に飲み食いしてんだよ」

KMR「えっ、それは（ドン引き）」

―――その頃ロビーのMURは―――

店員K「それじゃ、手本見せるから」

MUR「おう」

店員K「お客様、ご注文はお決まりでしょうか？」

客「ぼくひで」

店員K「かしこまり！」

店員K「次は君がやってみよっか」

MUR「おう」

MUR「お客様、ご注文はお決まりでしょうか？」

客「ねねねね、なんかオススメってある？」

MUR「ライス」

客「じゃあ、スープカレーで」

MUR「かしこまり！」

「注文を厨房のKMRに伝える」

MUR「KMRア！スープカレー1人前」

KMR「はい、よろこんで！」

「仕事を順調に終えた2人は給料を受け取りに行く」

店長「おう、2人ともご苦労さん、帰っていいぞ」

KMR「ちょっと待ってくださいよ！給料は？」

MUR「そうだよ（便乗）」

店長「なに言ってるんだ？給料ならハゲた奴に渡しておいたぞ」

KMR「あのハゲステロイダー、ハメやがったな・・・クソツタレ
！（マジギレ）」

MUR「これはゆるせねえな、そうだろKMRア？」

KMR「ああ、ぶち殺してやる」

————— 野獣邸に乗り込む2人 —————

インターホンくん「ピンポーン！（迫真）」

YJ妹「はい、どちらさま？」

KMR「KMRです、お兄さん帰ってきてる？」

YJ妹「うん、部屋でゲームやってるよ。入って、どうぞ」

「家にあがり、TDKRの部屋に向かう2人」

MUR「デデドン！（ノック音）」

TDKR「うえーい」

「扉を開けてTDKRが顔を出した途端、MURの正拳突きが顔面に炸裂する」

TDKR「ンアッー！！（悶絶）」

MUR「おう、TDKRオ！給料貰いにきたゾ！」

TDKR「もう使っちゃいましたよ（半笑い）」

KMR「ふざけんじゃねえぞ、オラァ！（腹5連釘パンチ）」

TDKR「ンアッ！ンアッ！ンアッ！ンアッ！ンアッー！！

(気絶)「

MUR「オラオラ、おねんねするには早いゾ(顔パン)」

TDKR「ぬわあああん勘弁してくださいよおおおん」

YJ妹「おらおらしねしねー！(金玉パン)」

TDKR「ファッ！？(絶命)」

どさくさに紛れて参加するYJ妹

KMR「容赦ないな・・・」

MUR「ポツチャマ・・・(恐怖)」

YJ妹「ついやっちゃったけど、ま、いいよね」

TDKRは妹にトドメをさされて終了

デパートへ行くの巻

チャイムくん「キンコンカンコン！(迫真)」

12..00 学校屋上

TDKR「ぬわあああんつかれたもおおん←」

KMR「はいはい」

MUR「おう、昼飯食おうぜ」

TDKR「プシュッ！ゴクツゴクツ！プハッ→」

KMR「先輩、学校にビールもってこないでくださいよ」

TDKR「堅いこというなよ(ゴクゴク)」

MUR「おい、KMRァ！(唐突)今日の弁当はなんだ？」

KMR「MURさんの好きな、から揚げです」

MUR「いいゾ！これ→(ご満悦)」

TDKR「から揚げとビール合いスギイ！」

KMR「外で飲み食いするってのがまたいいですよね」

MUR「KMRもわかってきたじゃねえか」

TDKR「あ、そうだ(唐突)帰りに育毛剤買いに行くんだけど、
2人もこない？」

KMR「特に予定もないですし、いいですよ」

MUR「そうだな(便乗)」

TDKR「じゃけん、帰り寄りましょうね」

19..00 デパート

KMR「育毛剤は医薬品コーナーですかね」

MUR「ついでにガムも買ってくか」

「医薬品コーナーでガムと育毛剤を購入する」

KMR「そうだ、今日はジャンプの発売日ですよ」

MUR「おっ、忘れてたな」

KMR「本屋寄ってきましようよ」

「本屋に到着して、しばらく立ち読みをする3人」

KMR「そろそろ、お腹空きましたね」

MUR「そうだな」

TDKR「あ、MURさん、なんかあ地下にい、タダで飯が食える所があるらしいっすよ」

MUR「タダで食えるのか？ならいきてえな」

TDKR「じゃけん、いきましょうねー」

―― 19..30 デパ地下 ――

TDKR「こ→こ←」

KMR「さすがに活気がありますね」

MUR「おまえら、こっちきてみろ！ウィンナー食い放題だゾ→」

TDKR「MURさん！こっちにはビールありますよ」

MUR「デパ地下にはなんでもあるな」

KMR「2人共、その辺にしといたほうが・・・」

TDKR「なにいつてんだよKMR、お前も食うんだよ」

「KMRも試食コーナーを食い荒らし始める」

「??」 「お客さん、そろそろ買ってください、オナシヤス！」

TDKR「まだ味がよくわからないんだよね、もうちょっと飲ませて」

「??」 「食ってばっかないで買えよオラァ！」

MUR「お兄さん、これすっげーうまいゾ」

「??」 「お兄さん？君なかなか見所あるね」（ご満悦）もっと食べていいよ」

KMR「これ美味しいな・・・。店員さん、これいくらです？」

「??」 「30本（一袋）で5万！」

KMR「ご、5万！？（ブリュリュ！ビチュバチュ！）」

「驚きのあまり、スープカレーを量産するKMR」

KMR「ああ・・・。ト、トイレ・・・」

「トイレに向かうKMR。そこへ戻ってくる2人」

MUR「あれ？KMRどこいった？」

TDKR「店員さん、KMR知らない？」

???「KMRって人かわかんないけど、ワッツってトイレに向
かってった人ならいたね」

MUR「一応トイレいつてみるか」

TDKR「ちょうど、おしっこしたかったんすよ」

トイレへ

MUR「おいKMRア！いるか？」

TDKR「先輩そっち女子トイレっすよ」

MUR「お、そうだな」

TDKR「俺が中見てくるんで、MURさん、適当にフラフラして
てくださいよ」

MUR「おう、まかせたぞ」

21..00 男子トイレ内

TDKR「KMRア！いたら返事しろー、いないな（ジョロロロロ
ロロ）」

KMR「せ、先輩！良いところにきてくれました」

TDKR「お、どうしたー？（ジョロロロロロ）」

KMR「紙がないんで持ってきてもらえますか？」

TDKR「どうすっかなー（ジョロロロロロ）」

KMR「先輩！お願いしますよ」

TDKR「しょうがねえなく、ちよつとまってて（ジョロロロロロ
ロ）」

小便を済ませ外にでる

TDKR「さーて、なにするんだったかな（ド忘れ）」

TDKR「そうだ、MURさん探さなきゃ」

探索する事1時間

22..00 ペットコーナー

TDKR「MURさん、こんなとこにいたんすか」

MUR「お、TDKRオ、お前も見てみるよ、かわいいゾ」

TDKR「なんかもう疲れちゃったし、そろそろ帰りましようよ」

MUR「そうだな、そうするか」

22..10 デパート前

TDKR「いやー、今日はいいい買い物しましたね」

MUR「タダで飯も食えたしな」

TDKR「そいじゃ、MURさんまた明日」

MUR「おう、気をつけて帰れよ」

同時刻

KMR「おーい・・・」

KMRはトイレで孤立して終了

―聖夜の裏技―

――12月24日――

TDKR「MURさん、夜中、海いきたくないですか？」

MUR「いきたくねーなー」

TDKR「じゃけん、明日いきましようねー」

KMR「明日は用事があるので、僕は遠慮します」

MUR「俺も明日はいけないな（便乗）」

TDKR「デデドン！（絶望）」

――翌日　とある屋台――

TDKR「おやじ、ビール！ビール！」

糞親父「クリスマスだってのに、あんちゃん1人か？」

TDKR「皆予定があるとか言っていましたよお←グビッグビッ」

糞親父「そんじゃ、後ろにいる2人はどちらさんだ？」

TDKR「ヌッ？」

「そつと振り返る」

MUR　KMR「メリークリスマス！」

TDKR「ファッ!？」

「驚いて口から色々飛び出す」

KMR「先輩、汚いっす」

MUR「おやじ、俺にもビール！」

糞親父「あいよ」

TDKR「2人とも予定があつたんじゃ？」

KMR「日にちを間違えてました」

MUR「俺もそんなところだ（便乗）」

「日本酒が運ばれてくる」

MUR「ん〜？おやじ！頼んだのはビールだぞ！」

糞親父「そいつぁワシのおごりだ」

MUR「おっ、そうかー（ご満悦）今日はとことん飲むゾー→」

K M R 「僕も付き合いますよ」

T D K R 「アォン！オォン！（号泣）」

3人は朝まで飲み明かして終了

―聖夜の裏技―（後書き）

先輩！これ去年のクリスマスネタですよ！

昼食を買いに行くの巻

―――授業中―――

TDKR「先輩！この辺にい、コンビニあるんですけど、後で昼食
買いに行きませんか？」

MUR「いきてーなー」

TDKR「じゃけん、昼買いにいきましょうね」

授業が終わり、教室から出て行く三人。

TDKR「ぬわあああん授業つかれたもおおおん←」

KMR「先輩寝てただけじゃないすか」

MUR「そうだよ（便乗）」

TDKR「そんなことより飯買いにいかないとな、ほらいくど」

TDKRの案内でコンビニへと向かった。

TDKR「こ→こ←」

SNJ「いらっしやいませ」（マジキチスマイル）

TDKR「喉乾いた・・・喉渴かない？」

KMR「別に」

TDKR「アイスティーなかったけどいいかな？」

MUR「ビックリマンチョコ、いいゾ」これ

KMR「僕はスープカレーにしよう」

TDKR「どうすっかな俺もな」（優柔不断）

SNJ「（なにやってんだあいつら・・・？）」

買い物を終えた三人はコンビニを出ていく。

TDKR「学校にさあ屋上あるんだけど、そこで食べない？」
MUR「おっ、いいな」

―――屋上―――

TDKR「やっぱり外で食べる飯はうまいっすね」

KMR「そういえば、先輩達お金払いましたか？」

MUR「なんのこったよ（すっとぼけ）」

TDKR「あ、お前さ、KMRさ、さっき俺らが買い物してる時呼んでもこなかったよな？」

TDKR「お前の分も適当に選んでおいたから」

KMR「ありがとうございます」

三人は仲良く昼飯を食べて終了

水族館に行くの巻

MUR「おい、KMRア！（唐突）水族館に行くゾ」

KMR「どうしたんですか、急に？」

TDKR「これこれ」

「手に持っていた雑誌をKMRに見せる」

KMR「へえ、この辺りに水族館がオープンするんですね」

MUR「ペンギンがいるんだゾ」

TDKR「もちろん、お前もくるよな？」

KMR「わかりました」

MUR「明日の11時に水族館に集合だゾ」

----- 11..20 水族館前 -----

MUR「TDKRの奴遅いな、もう20分も過ぎてるぞ（憤怒）」

KMR「そうですね・・・、先に入って見てみましょうか」

MUR「そうすっか」

「そう言って、入館する2人」

MUR「KMRア！、見てみろよ、海草がいっぱいだよ！」

KMR「MURさん、魚見てくださいよ」

MUR「こっちにはカニがいるゾ、うまそうだな」→

「しばらく進むと、遅刻していたはずのTDKRを見つける」

KMR「あ！TDKR先輩！」

「その声に気づいたTDKRがこちらに向かってくる」

TDKR「2人とも、遅いっすよ、」

MUR「遅刻したのはお前だろ（憤怒）」

TDKR「なにいつてんすか、中で待ってても2人共こないから、

一通り見て回っちゃいましたよ」

MUR「おっ、そうか（納得）」

「TDKRを加えた一行は再び館内を回り始める」

----- 14..30 水族館内 -----

MUR「ちかれた・・・（小声）」

KMR「MURさん、ちょっと休憩しましょうよ」

MUR「そうだな」

KMR「どこか休憩できる場所ありますかね」

TDKR「そういえば、あの辺にい、ラーメン屋ありましたよ」

KMR「先輩、案内してくださいよ」

レストランへ向かう一行

TDKR「ここ←」

MUR「ふう、ようやく一息つけるゾ←」

KMR「結構歩きましたもんね」

???「お客さん、ご注文は？」

MUR「どろり濃厚とんこつラーメンとビール」

KMR「僕はカレーラーメンとウーロン茶で」

TDKR「どうすつかな俺もな（優柔不断）」

（10分後）

MUR「おい、TDKRオ！、はやく決めろよ」

TDKR「わかりましたよー、じゃあデデ井とアイステイーで」

???「かしこまり！」

KMR「（デデ井ってなんだよ・・・）」

TDKR「あ、そうだ、MURさん！入り口ら辺に記念メダル作る

機械ありましたよ」

MUR「いいなーソレ」

TDKR「じゃけん、飯食ったらいきましようね」

注文した料理が運ばれてくる

MUR「うまそー→」

KMR「いただきます」

TDKR「なんだこの料理！（絶望）」

MUR「お兄さん、うまいゾーこれ」

???「ありがとナス！」

全員が食事を終えて

MUR「よし、そろそろいくか」

KMR「メダル作りにいくんでしたよね、先輩、案内おねがいします」

「メダルを作りに向かう一行」

TDKR「こ→こ←」

MUR「どうなってんだこれ？ KMR、まかせた」

KMR「はい、・・・なにか数字を入力しないといけないみたいですね」

TDKR「適当に114514でいいって」

KMR「わかりました、ピピピッ！、・・・できましたよ」

MUR「お、首からさげてみると、なんか優勝した気分だな」（ごく満悦）

TDKR「MURさん似合ってますよ（意味深）」

「すると館内に神の声が響き渡る」

アナウンス君「そろそろ閉館するんで、ワーって用事すませてパッと出てってオワリ！」

KMR「もうそんな時間なんですね」

MUR「あつという間だったな」

KMR「お土産買って帰りましょうか」

----- 19・30 水族館前 -----

MUR「今日は楽しかったゾ」（ご満悦）

KMR「たまにはこういう所も良いですね」

TDKR「なんか腹減ったなあ、これから寿司食いにいきませんか？」

MUR「よし、行くか」

KMR「先輩がおごってくださいよ（半笑い）」

TDKR「しょうがねえな、ほらいくぞ」

MURは目的を忘れて、寿司を食べに行き終了

遠足に行くの巻

TDKR「MURさん、なんか外で飯食いたくないすか？」

MUR「くいてーな」

TDKR「じゃけん、明日遠足いきましようね」

――翌日――

KMR「(先輩達、時間通りにくるのかな・・・)」

〽不安に思いつつ、集合場所に到着するKMR〽

MUR「おうKMRア！、時間ピッタリだな」

KMR「あっ、MURさん一番乗りですか」

MUR「遅刻するといけないからな、ここで寝てたんだゾ」

KMR「えっ」

〽そんなこんなでTDKRが到着〽

TDKR「おまたせ！」

MUR「おう」

KMR「皆揃いましたね、それじゃあ・・・」TDKR「ほらいくど〜！」

――30分後――

TDKR「ぬわああんつかれたもおおおん←」

KMR「そろそろお弁当にしましょうか」

MUR「いいゾ〜景色」

KMR「ところで、先輩達なに持ってきました？」

MUR「ポテチとビックリマンチョコとうまい棒(なっとう味)」

TDKR「家にビールしかなかったけど、ま、いいよね」

KMR「そうくると思って、僕がお弁当作ってきましたよ」

MUR「おっ、KMRえらいゾ、ビールは冷えてるか？」

TDKR「ばっちえ、クーラーボックスにいれてきましたよ」

MUR「2人とも気が利くな〜(ご満悦)」

――帰りの道中――

KMR「そうだ、MURさん、さっきのチョコからキラキラしたシールがでてきましたよ」

MUR「いいな〜それ」

KMR「僕には必要ないんで、MURさんどうぞ」

MUR「おっ、そうか〜？わるいな〜（ご満悦）」

MURは欲しかったシールを手に入れて終了

空手部 肝試しの巻

KMR 「MURさん、最近、校門前に幽霊がでるらしいですよ」
MUR 「おっ、そうか」

KMR 「後でTDKR先輩も誘っていきましょうよ」
MUR 「面白そうだし、いいゾ」

「そんな話をしていると、TDKRが登校してくる」

TDKR 「ぬああん遅刻したもおおん」

KMR 「先輩、おはようございます」

MUR 「おう」

TDKR 「なんか2人して楽しそうじゃーん」

KMR 「今、肝試しの話してたんですよ」

MUR 「そうだよ（便乗）」

KMR 「先輩もいきましようよ」

TDKR 「KMRから誘ってくるなんて珍しいな（ご満悦）」

KMR 「じゃあ、22時に校門前に集合しましょう」

----- 22:00 校門前 -----

KMR 「先輩達、遅いな」

??? 「おい」

KMR 「先輩！遅いですよ・・・って、アレ？誰もいない・・・」
??? 「後ろだよ、オウ」

KMR 「後ろ？・・・うわあああああ！！（ブリュリブリュ！ビ
チュバチュ！）」

「スूपカリーを生産しながら逃走」

----- 23:15 校門前 -----

MUR 「おや、誰もいないゾ？」

??? 「おい」

MUR 「おっ、なんだなんだ？」

??? 「後ろだよ、オウ」

MUR「後ろ・・・？ポ、ポツチャマ（失神）」

10..00 野獣邸

TDKR「ファッ！？（起床）」

TDKRは寝すごしてしまい終了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2157ba/>

空手部の日常

2012年1月5日22時53分発行